

## 第8回 藤枝市認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会

主 催：藤枝市 健康福祉部 地域包括ケア推進課

と き：令和8年3月11日（水）午前10時～

ところ：藤枝市民会館 2階 会議室

### 1. 開 会

### 2. 健康福祉部長あいさつ

### 3. 委員長あいさつ

### 4. 議事

(1)令和7年度認知症とともに生きる共創のまちづくり計画に基づく取組の進捗状況及び評価について

(2)令和8年度の取組について

### 5. 連絡事項

(1)概要版、計画の冊子について

#### 【次回開催日】

第9回藤枝市認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会

令和8年5月21日（木） 14時から 場所：市役所西館5階大会議室

## ◆ 第 10 次ふじえだ介護・福祉ぷらん 21（高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）の調査について

● 藤枝市高齢者の生活と意識に関する調査

- 1 調査対象 高齢者一般調査 3,000人  
総合事業対象者・在宅要支援対象者 770人
- 2 発送日 令和8年1月26日（月）より順次
- 3 提出期限 令和8年2月12日（木）までに投函

● ケアマネジャー対象の調査について

- 1 調査対象 ケアマネジャー（居宅介護、小多機、看多機） 151人（45事業所）
- 2 発送日 令和8年1月26日（月）より順次
- 3 提出期限 令和8年2月12日（木）までに投函

	重点目標	調査項目（アウトカム指標）
指標 1	希望ある認知症観の普及と理解の深化	認知症になってからも、希望を持って暮らし続けることができると思う人の割合
指標 2	一人一人の個性と力を生かした社会参加の促進	認知症の人が外出や買い物、地域活動等の自分のやりたいことを実現できていると思う人の割合
指標 3	安心して思いを伝えられる環境づくりの推進	自分が認知症になったとき、身近な人に気持ちを伝えられると思う人の割合

## 問8 認知症について

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(○は1つ)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

※県共通

(2) あなたは、今の社会で認知症の人が自分らしく暮らしていると思いますか  
(○は1つ)

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| 1. そう思う      | 2. どちらかと言えばそう思う   |
| 3. どちらとも言えない | 4. どちらかと言えばそう思わない |
| 5. そう思わない    |                   |

※県共通 (新)

(3) 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(○は1つ)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

※県共通

(4) あなたは認知症になってからも地域で仲間等とつながりながら、希望を持って暮らし続けることができると思いますか (○は1つ) **※指 標 1**

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| 1. そう思う      | 2. どちらかと言えばそう思う   |
| 3. どちらとも言えない | 4. どちらかと言えばそう思わない |
| 5. そう思わない    |                   |

(5)あなたは認知症について、どのような印象や考えをお持ちですか。あてはまるものをすべて選んでください(○はいくつでも) ※指 標 1

1. 認知症は誰もがなる可能性があり、自分にも関係があると思う
2. 認知症になっても、家庭や地域での役割を持って生活できると思う
3. 認知症になっても、希望を持ちながら暮らし続けられると思う
4. 認知症になっても、自分の意志でやりたいことをしながら生活できると思う。
5. 認知症になると、やりたいことや希望をかなえることは難しくなると思う
6. 認知症は自分にはあまり関係がないと思う。
7. よくわからない

(6)あなたの住む地域では、認知症の人が外出や買い物、地域活動などの自分のやりたいことを実現できていると思いますか(○は1つ) ※指 標 2

1. そう思う
2. どちらかと言えばそう思う
3. どちらかと言えばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

(7)あなた自身が認知症になったとき、認知症であることや自分の思いを、身近な人に伝えられると思いますか(○は1つ) ※指 標 3

1. そう思う
2. どちらかと言えばそう思う
3. どちらかと言えばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

(8)あなた自身が認知症になったとき、認知症であることや自分の思いを伝えたいと思う相手は誰ですか。あてはまるものをすべて選んでください(○はいくつでも)

1. 配偶者・パートナー
2. 子ども
3. その他の家族(きょうだい・孫など)
4. 友人・知人
5. 医療や福祉専門職(医師・看護師・ケアマネジャーなど)
6. 地域の仲間やコミュニティ
7. その他( )
8. 特にいない

## ケアマネジャー調査

問23. あなたは、認知症のある利用者に対して、日常的にどのような意思決定支援を行っていますか。(①～⑦のそれぞれ○は1つずつ) ※指 標3

	い る	常 に 行 っ て	行 っ て い る	あ る 程 度	言 え な い	ど ち ら と も	て い な い	あ ま り 行 っ て い な い	い な い	全 く 行 っ て
①利用者がどのような暮らしをしたいか、暮らしの意向を確認している。		1		2		3		4		5
②利用者の認知機能に応じて、理解しやすい言葉や方法(写真や絵、具体物等)で説明している。		1		2		3		4		5
③利用者が言葉で表現しにくい場合、表情や身振りなどから意思を読み取るようにしている。		1		2		3		4		5
④利用者の意思を担当者会議などで多職種と共有している。		1		2		3		4		5
⑤利用者の意思が確認しづらい場合には、家族や身近な人からの、本人の推定意思を確認している。		1		2		3		4		5
⑥意思決定支援に関する学習会や研修会に参加している。		1		2		3		4		5
⑦その他[ ]		1		2		3		4		5

令和7年度

認知症とともに生きる共創のまちづくり計画に基づく  
取組の進捗状況及び評価について

# 重点目標 1 希望ある認知症観の普及と理解の深化

## ◆ 重点施策

1. 認知症の人の本人発信と本人参画の推進
2. 条例の基本理念の普及・啓発
3. 学び合いの機会の創出

令和8年2月末現在

アウトプット指標（目標に向けた取組の実施状況）	令和7年度
会議や検討会、講演会等に参加した認知症の人の数	39人
認知症とともに生きることについて学び合う会の回数と人数	14回／633人
アウトカム指標（目標の達成状況）	令和7年度
認知症になっても、希望を持って暮らし続けることができると思う人の割合	

# 重点目標 1 希望ある認知症観の普及と理解の深化

## 取組内容：学び合いの機会の創出

### □ 知ろう！話そう！認知症とともに生きること

日時：令和7年11月27日(木) 場所：藤枝地区交流センター

内容：【第1部】講演：認知症とともに働く～わたしのセカンドストーリー～

ほっかいどう希望大使 松本 健太郎 さん

【第2部】Talk with ～みんなで話そう！～

本市在住の本人 久保 亜紀子 さんの話、会場からの質問や感想の共有

参加者：80名（20代～80代）



# 重点目標 1 希望ある認知症観の普及と理解の深化

## 取組内容：学び合いの機会の創出

### □ 認知症の私から伝えたいこと～医療や福祉を支えるあなたへ～

主催：藤の花かんかんネット

日時：令和7年11月30日(日) 場所：藤枝市立総合病院

内容：・講演：ほっかいどう希望大使 松本 健太郎 さん

砂川市立総合病院 精神保健福祉士 大辻 誠司 さん

・藤枝市の認知症施策について

参加者：55名（30代～80代）



# 重点目標 1 希望ある認知症観の普及と理解の深化

取組内容：学び合いの機会の創出

## □ ★THE★ふくし2025

～認知症のこと、知って感じて、交流しよう！～

主催：藤枝市社会福祉協議会

日時：令和7年12月6日(土) 場所：稲葉地区交流センター

内容：・認知症の人から暮らしのこと、工夫について聴いてみよう

・交流しよう ～一緒に料理しよう～

・認知症や認知症の取組について知ろう。

・地域で活躍している「認知症の人に優しい事業所」の取組を知ろう

参加者：10名（10代）



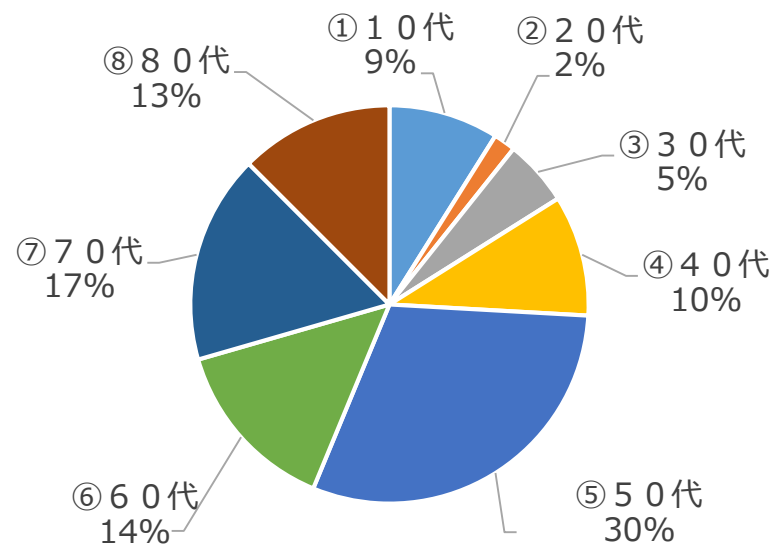


## アンケートより

- ・誰もがなる可能性がある。話の中で、「申し訳ない」「迷惑をかけたくない」という言葉が何個かあったけど、全然そんなことはないよ！助け合おうよ！という社会になるといいな。
- ・カレンダーに忘れないように工夫したり、家族の写真を見える場所に貼ったり、ヘルプカードを持っていたり、沢山の工夫を知れて良かったです。
- ・私は片山さんと斎藤さんと出会うまで、認知症の方とは関わることができないと思っていましたが、今回関わることができ、楽しくお話ができたり、料理もでき、認知症の方と忘れるくらい楽しい時間を過ごせました。
- ・理解する機会がなかなかないからもっとみんなに知ってもらえたら、もっといい助け合える社会になると思う。もっとみんなが楽しく暮らせるようになるといい。

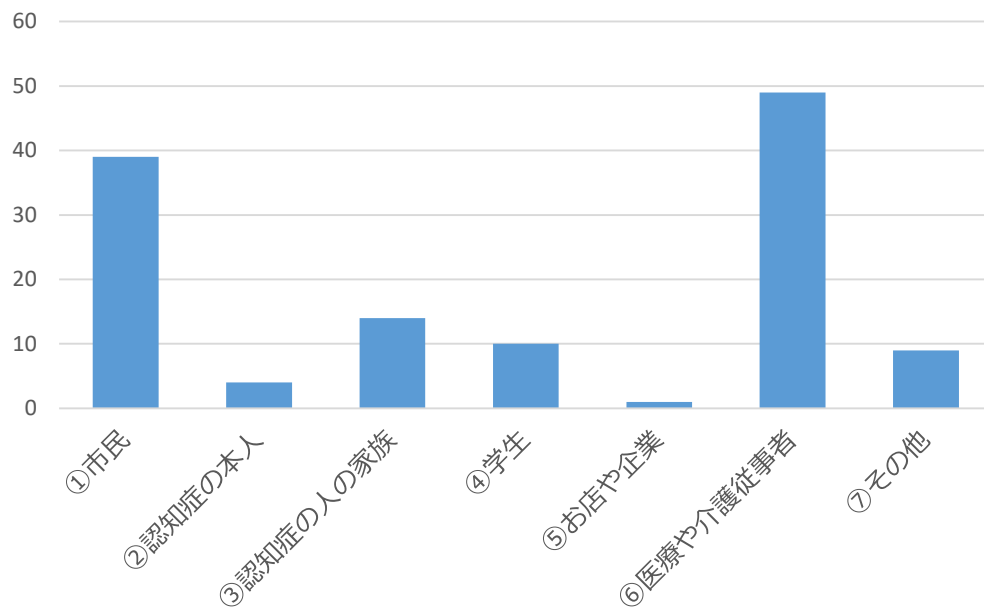
## ● 参加者属性

年代	人数	%
① 10代	10	9%
② 20代	2	2%
③ 30代	6	5%
④ 40代	11	10%
⑤ 50代	34	30%
⑥ 60代	16	14%
⑦ 70代	19	17%
⑧ 80代	14	13%
合計	112	100%



(複数回答)

立場	人数
① 市民	39
② 認知症の本人	4
③ 認知症の人の家族	14
④ 学生	10
⑤ お店や企業	1
⑥ 医療や介護従事者	49
⑦ その他	9



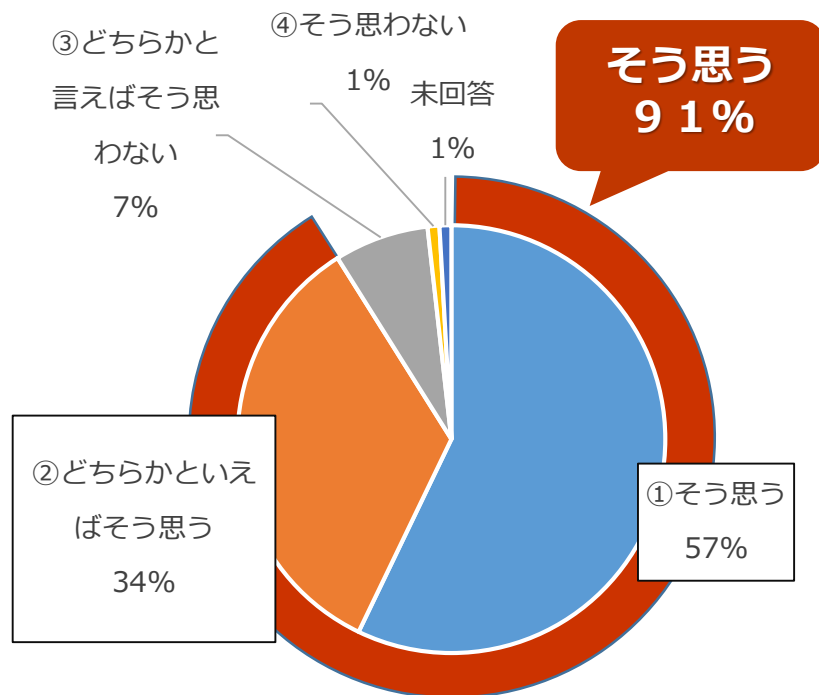
・ 63%が1項目のみを選択。  
 実際には複数の立場にある可能性がある。

## 【学び合う会のアンケートより】

※ 第10次ふじえだ介護・福祉ぷらん21の調査項目を学び合う会でも実施

「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも地域で仲間等とつながりながら、希望を持って暮らし続けることができる」と思いますか。

項目	人数	%
① そう思う	64	57%
② どちらかといえばそう思う	38	34%
③ どちらかといえばそう思わない	8	7%
④ そう思わない	1	1%
未回答	1	1%
合計	112	100%



## アンケートより抜粋

### (地域、社会の理解・認知症観)

- ・認知症の方への理解を示してくれる人が少ないと思います。もっと認知症の方の声が世間に広まると良いと思いました。
- ・たまたま認知症を持つ身になった人として共に社会に生きる。
- ・社会全体で受け止めたいと思う。
- ・現時点では、認知症の人が地域活動や仕事などを行う事が難しい社会だと思うが、今後改善されて、人として尊重され共に生活できるようになって行くように考え方を変えて行けるように思います。
- ・意識改革が進んで、認知症になったことを周りに言えて、支え合える世の中になるといいなと思います。
- ・認知症になりたくないとは誰も思うことですが、認知症になっても大丈夫、ここで暮らしていけると思える藤枝市にしたいです。
- ・今までの認知症の方への考え方が変わった
- ・認知症について学び、それなりに理解していたつもりになっていた事に気付いた。自身の中にある偏見に気付けた事です。

### (自分ごと)

- ・今まで認知症を自分の事として捉えられていませんでしたが、誰にでもおこり得ることであり、自分の家族が友人にもなる可能性があるのだと改めて思い、その時どうサポートしていくかを話していきたいと思いました。
- ・自分が認知症と自覚した時は、生活、仕事がまたできる様になる。

## アンケートより抜粋

### (認知症の本人の経験/生活)

- ・当事者の皆さんのお話を伺い、診断されてからの日常の暮らしの工夫やこれまでの人との繋がり・関係性が大切であることを実感しました。
- ・認知症の家族の話しもあると、嬉しいです、経験している人の話し是非聞かせて頂きたいです。

### (支え・サポート・環境整備)

- ・人の尊厳を感じ、支援する事が大事だと思う。
- ・仕事と通して交わることが多く、もし自分の周りに認知症がいたら大変だと思う。家族や友人など周りのサポート、環境や信頼を形成していき、助け合いが必要だと思う。
- ・助けを求められる人、求めに応じてくれる人が多くいる藤枝市であると良いと思いました。
- ・サポートがあればその人らしく生活出来る。
- ・「安心できること」が大切だと思います。家族や周囲の人が安心できる存在であることで認知症でもなくとも、優しい暮らしに繋がると思います

### (窓口/受診/情報)

- ・家族がいない場合、自分が認知症だと診断、医療機関の受診が難しい、包括支援の方と出会うまでが心配。
- ・悩んでいる人、私みたいにアルツハイマー、自分がかからないと思っている人多い。おかしいと思ったら病院に行ったり、相談窓口に行けると良い。どこに相談して良いか分からない人多いと思う→こういう所に行くといいよと教えてくれると良い。健康について気軽に相談できる窓口があると良い。
- ・本人発信が進めば、認知症をオープンにする人が増えると思いました。受診も早くなるのではないかと思います

# 重点目標 1 希望ある認知症観の普及と理解の深化

取組内容：学び合いの機会の創出

## □ 認知症 希望のリレーフォーラム in 藤枝

主催：厚生労働省 共催：藤枝市、日本認知症本人ワーキンググループ

日時：令和8年2月20日(金) 場所：生涯学習センター

内容：【第1部】本人・活動パートナー座談会

長谷部 保さん(藤枝市)、柿下 秋男さん(東京都)、鈴木 貴美江さん(京都府) 他

【第2部】本人・活動パートナーによるリレートーク

※ 本人の作品展、写真展を同時開催

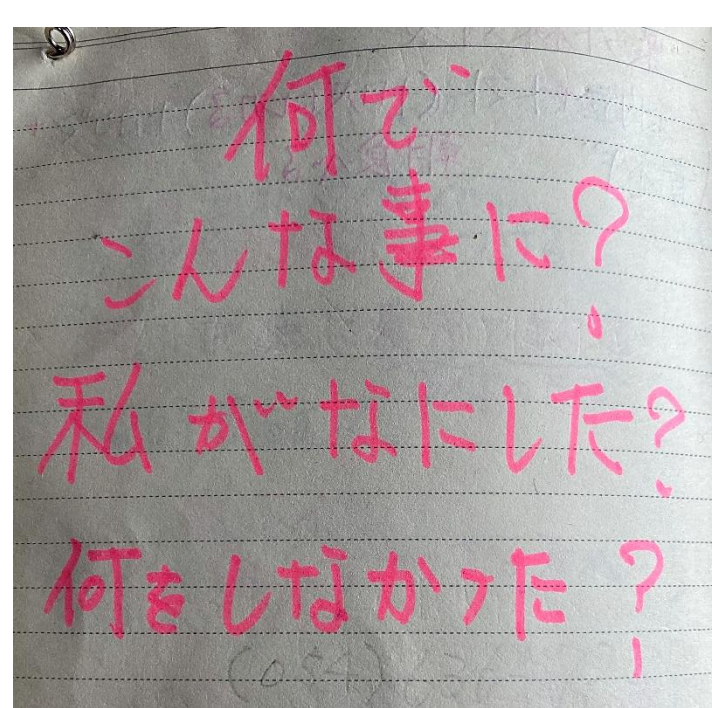
参加者： 会場 約120名 オンライン 名 ※全国から参加





## リレートークの様子

- ・進行は本人
- ・市内、市外の本人とパートナーがそれぞれの思い、考えを発信。



- 日頃の思いを書き留めた日記と、日課である廃材を使い作ったお人形の展示



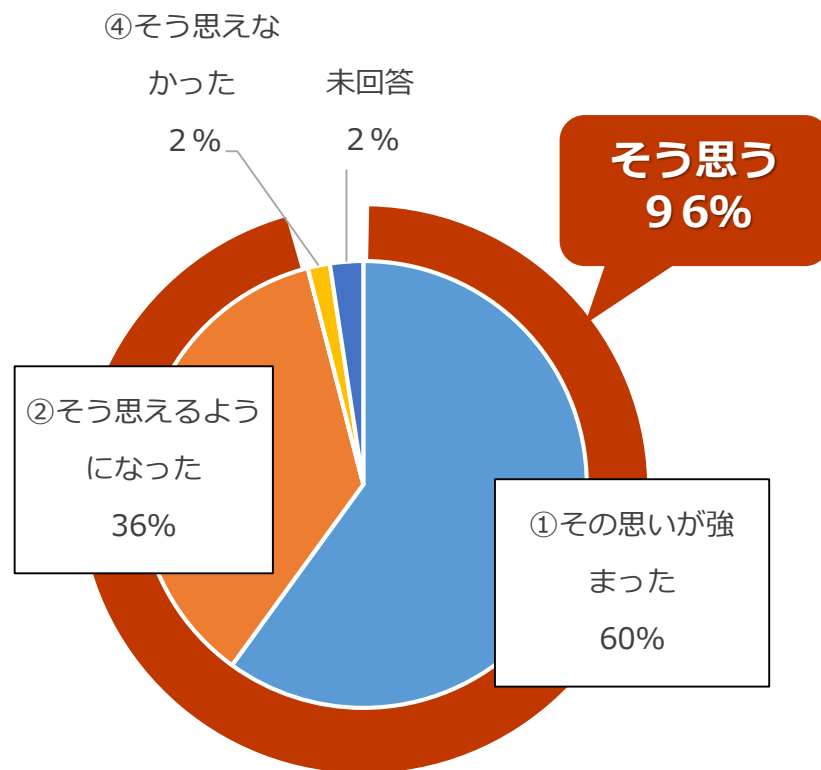
- 初期の頃の本人の作品と家族の思いの展示
- その他に県外のご本人の作品の展示と活動の紹介

## 【学び合う会のアンケートより】

※ 第10次ふじえだ介護・福祉ぷらん21の調査項目を学び合う会でも実施

今日のイベントを通じて、「認知症になってからもできること・やりたいことがあり、地域で仲間とつながりながら希望を持って自分らしく暮らし続けられる」と思うことができましたか。

項目	人数	%
① その思いが強まった	75	60%
② そう思えるようになった	45	36%
③ そう思えなかった	0	0%
④ その他	2	2%
未回答	3	2%
合計	125	100%



## アンケートより抜粋

- ・ご本人の生の声を聴くことは新しい認知症観を肌で感じる事が出来るチャンスとと思っていました。「一人では生きられない」まさにその通りですね。専門職として…と構えるのではなく、ご本人が明るく生活していける環境・役割を一緒に探して共に過ごして行ければと改めて感じました。声を聞いてよかった。しっかり支援をお願いします。私も介護頑張ります！
- ・言いやいではなく、ディスカッション。ちゃんと自分の意見を言う。やりたいことは言ってみる。きっと受け止めてくれる人がいる。認知症の人が言っているからと言って聞き流すのではなく、ちゃんと受け止めていきたいなあと改めて思いました。
- ・「認知症になったらなにもわからなくなる、なにもできなくなる」といったこれまでの考え方を「新しい認知症観」に変えていくことが、ともに自分らしく暮らし続けていくための大事な一歩だと思つづく思いました。
- ・認知症の人の為「に」ではなく、認知症の人「と」共に。認知症観が変わりました！
- ・認知症になってもこういう社会になってくれたら、これからは安心です。
- ・認知症当事者との対話が重要と思う。介護者が代弁することが多いので、真意を聞くことが少ない。

## アンケートより抜粋

- ・長谷部さんの話された参画という言葉がとても印象的でした。自分で計画して参加する。用意された場に参加するだけでなく主体的に取り組むことの大切さが伝わりました。認知症になっても諦めず色々なことに挑戦する。その姿は診断され落ち込んでいる仲間を助けることにもつながると思います。こういったフォーラムが各地で開催され、当事者同士のピアサポートが活発に行われることを望みます。
- ・本人からの発信やパートナーの実践を拝聴して、いつも前向きな気持ちになります。今回は、グループホームで生活されている本人発信の様子が一番印象に残りました。自宅で生活が続けることが幸せではなく、どこにいても幸せを感じることができると再認識することが出来ました。ありがとうございます。
- ・その人の力が発揮できる環境を整えることが非常に重要であると感じた。言葉や言葉以外の発信方法で、自分らしく過ごしていることが伝わってきました。様々な発信を安心してできることの重要性を感じました。ありがとうございました。
- ・施設に入所されている、と言ってもお元気で、心からの笑顔でキラキラ輝いて生活されている様子がみられており、本当に認知症なの？と分からないのですが、それが特別な存在ではない、と率直に思った印象でした。

## 重点目標 2 一人一人の個性と力を生かした社会参加の促進

### ◆ 重点施策

1. 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進
2. 認知症になっても活躍することができる多様な機会の創出
3. 介護しながら働き続けられる環境整備の推進

令和8年2月末現在

アウトプット指標（目標に向けた取組の実施状況）	令和7年度
バリアフリー化に向けた検討や取組を行った回数	0回
家族等の声をもとに仕事と介護の両立について検討した回数	0回
アウトカム指標（目標の達成状況）	令和7年度
認知症の人が外出や買い物、地域活動等の自分のやりたいことを実現できていると思う人の割合	

# 認知症 希望のリレーフォーラムin藤枝～展示～



- グループホームで暮らす本人による。お抹茶のおもてなしと、作品の展示。

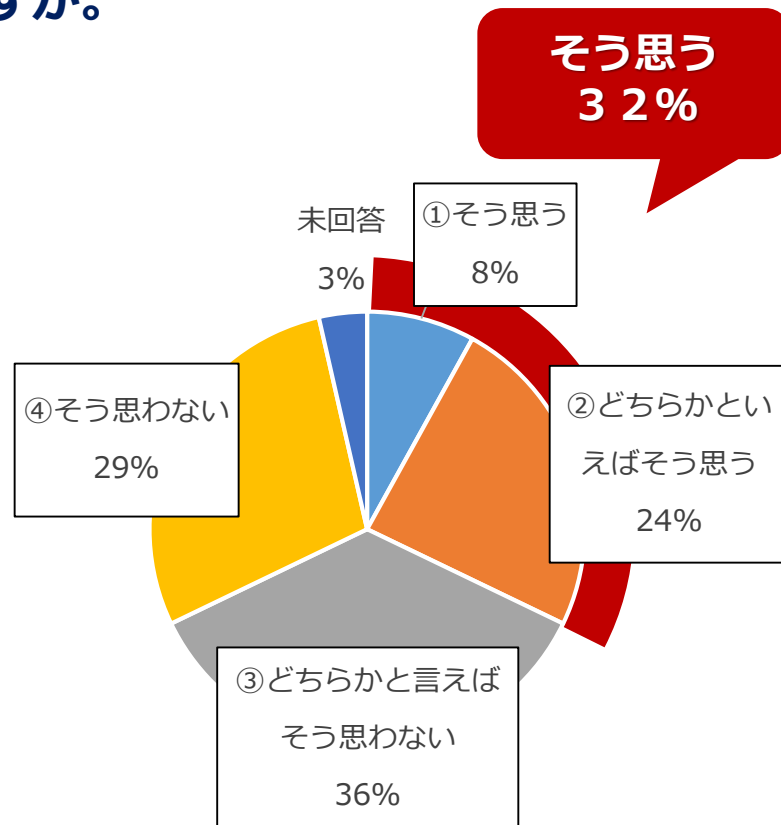


## 【学び合う会のアンケートより】

※ 第10次ふじえだ介護・福祉ぷらん21の調査項目を学び合う会でも実施

**あなたの住む地域では、認知症の人が外出や買い物、地域活動などの自分のやりたいことを実現できていると思いますか。**

項目	人数	%
① そう思う	9	8%
② どちらかといえばそう思う	27	24%
③ どちらかと言えはそう思わない	40	36%
④ そう思わない	32	29%
未回答	4	4%
合計	112	100%



- ・ 「そう思わない」が65%。⇒回答理由の調査について、今後取り入れていきたい。
- ・ 社会参加の促進に向けて、今後は、よりそれぞれの立場や役割を生かした取組の推進が必要である。  
⇒来年度から、部会を通して具体的な取組につなげていくための検討を進めていきたい。

## 重点目標3 安心して思いを伝えられる環境づくりの推進

### 重点施策

1. 認知症の人同士・家族同士が会いつながりあう機会の創出
2. 認知症に関する情報の発信
3. 意思決定支援の理解の促進と実践の推進

令和8年2月末現在

#### アウトプット指標

令和7年度

認知症の人同士の交流会等への認知症の人の参加人数

79人

家族同士の交流会等への家族参加人数

89人

意思決定支援について学び合った回数と人数

2回/82人

#### アウトカム指標

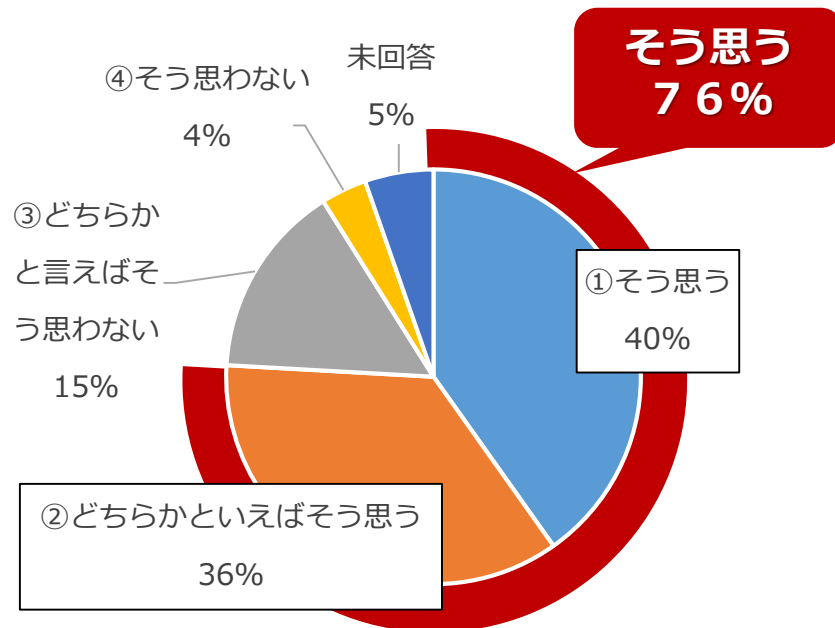
令和7年度

自分が認知症になったとき、身近な人に気持ちを伝えられる  
と思う人の割合

## 【学び合う会のアンケートより】

※ 第10次ふじえだ介護・福祉ぷらん21の調査項目を学び合う会でも実施  
**あなたが認知症になったとき、認知症であることや自分の思いを、身近な人に伝えられますか。**

項目	人数	%
① そう思う	45	40%
② どちらかといえばそう思う	40	36%
③ どちらかといえばそう思わない	17	15%
④ そう思わない	4	4%
未回答	6	5%
合計	112	100%



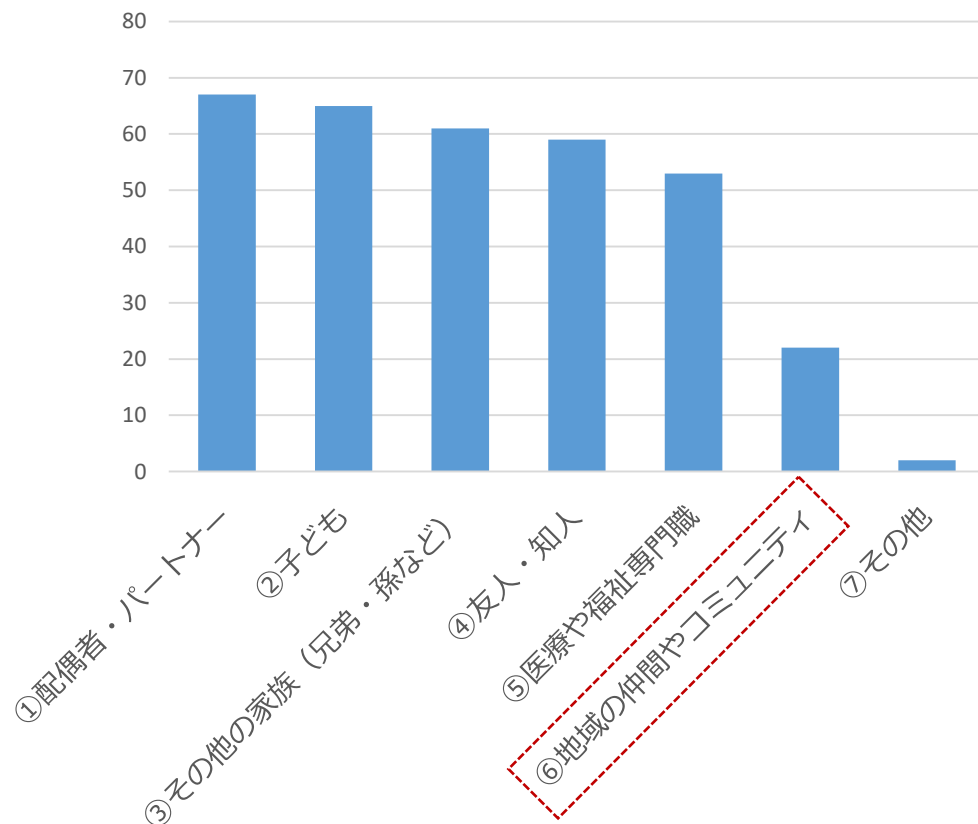
## 【学び合う会のアンケートより】

※ 第10次ふじえだ介護・福祉ぷらん21の調査項目を学び合う会でも実施

**あなたが認知症になったとき、認知症であることや自分の思いを伝えたいと思う相手は誰ですか。（複数回答）**

N=85

項目	人数	%
① 配偶者・パートナー	67	79%
② 子ども	65	76%
③ その他の家族（兄弟・孫など）	61	72%
④ 友人・知人	59	69%
⑤ 医療や福祉専門職	53	62%
⑥ 地域の仲間やコミュニティ	22	26%
⑦ その他	2	2%



・「地域の仲間やコミュニティ」は26%と低い傾向にある。

## 令和8年度 藤枝市認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会 年間予定(案)

※会場、内容は変更となる可能性がございます。

	会議	日程		開始時間	会場	内容(案)
		日付	曜日			
1	第9回	R8年5月21日	木	14:00	市役所西館5階 大会議室	令和8年度の計画に基づく取組について
	部会①	6月頃				社会参加バリアフリーについて
	部会②	7月頃				意思決定支援について
2	第10回	9月頃				令和8年度の計画に基づく取組の進捗状況について (中間報告)
	部会①	10月頃				社会参加バリアフリーについて
	部会②	12月頃				意思決定支援について
3	第11回	R9年3月				令和8年度の計画に基づく取組の進捗状況及び評価 について 令和9年度の取組について

